

# 人間らしく働くための九州セミナー

(旧称)人間らしく働くために 労災職業病九州セミナー

労働者の街・北九州

東田高炉 (北九州市八幡東区)  
数字のプレートがかかっているのは、官営の製鉄所として明治34(1901)年に火入れがなされた八幡製鉄所現新日本製鐵の東田第一高炉。昭和47(1972)年に本来の役目を終えモニュメントとして保存されています。



in 北九州

1日目

SCHEDULE

2010年

11月20日(土)

会場/ウェルとばた 大ホール

開場/12:30 開会/13:30

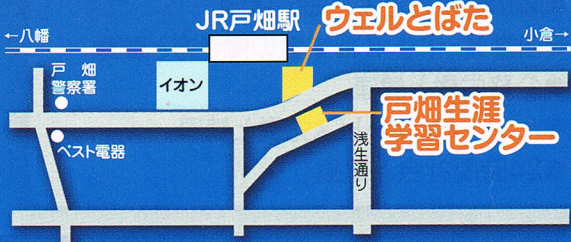
記念講演 14:00~15:30

講師 東海林 智氏 (毎日新聞記者)

『労働の尊厳を取り戻そう ~私たちの命を守るために~』

パネルディスカッション 15:45~17:45

『若者の労働から考える 私たちの未来』



2日目

2010年

11月21日(日)

会場/ウェルとばた 戸畑生涯学習センター

テーマ別分科会

特別企画 (講演とパネルディスカッション) 9:00~11:50

『子どもの貧困と 現代日本の働き方・働かされ方』

全体会 12:00~12:30

市民公開講座 13:00~15:00

講師 大山 泰弘氏 (日本理化学工業(株)会長)

『働く幸せ~仕事でいちばん大切なこと~』

会場/ウェルとばた 北九州市戸畑区汐井町1-6 TEL 093(871)7200 戸畑生涯学習センター 北九州市戸畑区中本町7-20 TEL 093(882)4281

《資料代》2日間参加...¥3,500 1日参加...¥2,000 夜の交流会参加費(¥5,000)



# 人間らしく働くための九州セミナー

in 北九州

(旧称：人間らしく働くために 労災職業病九州セミナー)

「人間らしく働くために 労災職業病九州セミナー」は、昨年の熊本開催で20年の歴史を重ね、働く人々のいのちと健康を守る学習と交流を行う「九州セミナー運動」として大きく発展してきました。この20年間に日本経済は激動し、働き方・働かされ方も大きく変わりました。新自由主義、市場経済優先の経済政策のもと、多くの非正規労働者が作り出され、規制緩和による労働法制の改悪で雇用破壊が進行しました。その結果、深刻な「貧困」問題が社会を覆い、メンタル不全の増大など、働く人々の健康状態の悪化も進行しました。

こうしたもとで「健康に、そして人間らしく働く」こ

とを追求してきた九州セミナーは、働く人々の健康問題を幅広く取り上げる運動として大きく発展し、運動の発展に相応しく、「人間らしく働くための九州セミナー」に改称されました。第21回目となる九州セミナーは、名称変更後、最初のセミナーとして開催し、新たな発展をめざします。

今回のセミナーでは、働く人々の健康問題を日本社会を覆う深刻な「貧困問題」から捉え、真に「人間らしく働くとは何か」を考えていきます。

どなたでも自由に参加できます。九州各県・各地域から多くの方々に参加頂きますようご案内申し上げます。

## 1日目 11月20日(土)

会場 **ウェルとばた 大ホール** ●開場／12:30 ●開会／13:30

記念講演 14:00～15:30

講師 とうかいりん さとし  
**東海林 智氏** (毎日新聞記者)

『労働の尊厳を取り戻そう ～私たちの命を守るために～』

パネルディスカッション 15:45～17:45

『若者の労働から考える私たちの未来』

## 2日目 11月21日(日)

会場 **ウェルとばた 戸畑生涯学習センター**

テーマ別分科会 9:00～11:50

特別企画 (講演とパネルディスカッション) 『子どもの貧困と現代日本の働き方・働かされ方』

全体会 12:00～12:30

市民公開講座 13:00～15:00 講師 おおやま やすひろ  
**大山 泰弘氏** (日本理化学工業(株)会長)

『働く幸せ～仕事でいちばん大切なこと～』

現地実行委員会では、演題を募集するためのテーマを、以下の表題で募集しています。

※挙げたテーマすべてで分科会を開催するわけではありません。報告や参加の多寡によって分科会を編成するものとします。

- 若者の雇用と健康
- 職場での労働安全衛生活動
- 労働者のメンタルヘルス
- 病気になった労働者の休む権利・職場に復帰し働く権利
- 長時間労働や過重労働と過労死
- アスベスト問題
- じん肺・振動病など
- 医療・介護・福祉の現場から見た働く人々の健康
- 格差社会がもたらす貧困と健康
- 外国人労働者の問題
- 働く女性の健康
- 親の働き方と子どもの貧困
- 自営業・中小零細業者の働き方と健康
- 公務労働と健康
- ヒューマンサービス労働と健康
- 24時間社会と健康